

看護学同窓会便り No. 11

平成27年11月23日発行
連絡先
電話・FAX 095-819-7947
同窓会事務局 浦田

会長あいさつ

会長 浦田 秀子

会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年11月の総会で下田澄江会長の後任として承認され、平成27年4月より会長をお引き受けいたしました。微力ながら母校の発展のため努めさせていただき所存でございます。ご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

本年は長崎に原爆が投下されて70年目を迎えます。壊滅的な被害により一瞬にして多くの先輩諸姉を失いました。そして、自らも被爆しながら救助活動された先輩たちから私達は多くのことを教えていただきました。まさしく看護そのものでした。復興の記念事業を行うために「長崎大学医学部原爆復興70周年記念事業実行委員会」が立ち上がり、長崎看護学同窓会長も発起人の一人として委員会に参加いたしました。主な事業は献花台の設置、被災写真・資料展、劣化している原爆関係の資料の修復などです。会員の皆様からはその趣旨にご賛同いただき、多くの寄付をよせていただきましたことに心より感謝申し上げます。

長崎大学は世界で唯一直接核兵器の被害を受けた大学として、長年にわたり放射線被ばくの健康影響に関する研究を蓄積してきました。東日本大震災後の東京電力福島第一原子力発電所事故では発災直後から福島県への支援活動を開始しました。原爆から復興してきた経験と放射線被ばくの研究が生かせるとの思いで多くの教職員、学生が現地に赴きました。その中で長崎大学は福島県双葉郡川内村に復興推進拠点を開設し福島県の「復興モデル」としてこれまで支援をしております。現在では震災前の約6割の住民の方が帰村されております。今年、支援の一つである「川内村復興子ども教室」のため8月18日に小学生6年生の5名が長崎市を訪問しました。将来の川内村を担う子ども達が、長崎が原爆からどのように復興したのか、そして現在の問題は何かという課題をもつての研修でした。その中で、NHKが作成した原爆復興68年目のDVDを見ることができました。主な内容は、「復興は市民自らが行う」の精神で会社を立ち上げた社長と社員、被災後の小学校を早期開校し、被爆した住民の一人ひとりを支え、復興に立ち向かう自治会長の活動をドキュメンタリーで作成されていました。視聴後の子どもたちは「復興は自分たちにかかっている」と感想を述べてくれました。DVDの内容もさることながら子どもたちの力強さが感動でした。9月に訪村した時は、村で収穫した米の全部がすべての基準をクリアし出荷する日でした。稲を植え、収穫するという震災前の当たり前の生活に村の復興・創生を祈りました。

今年も11月23日に同窓会総会、懇親会を開催いたします。皆様お誘いあわせの上ご出席下さいますようご案内申し上げます。皆さまにお会いできることを楽しみにしております。



平成26年度庶務報告

- 平成26年度入会者 81名
平成27年度入会者 79名
- 経過報告
 - 同窓会総会 平成26年11月23日
 - 理事会開催 4回
 - ホームページ管理
 - 慶弔
 - 3月25日 医学部保健学科卒業式
お祝い: 生花スタンド
 - 物故者へ弔電
 - 原爆慰霊祭に浦田会長献花、生花寄贈
- 看護学研究奨励賞運営
- 同窓会便りNo.10発行
- 原爆復興70周年記念事業

同窓会員数

総数	3,728名
養成所	288名
厚生女学部	140名
看護学校	1,310名
医療短大	1,201名
保健学科	769名(医療短大の卒業生7名を除く)
修士課程	20名(看護学校、医療短大、保健学科の卒業生21名を除く)

平成27年9月30日現在

ホームページのご案内

長崎看護学同窓会のホームページを開設して皆さまにお知らせやご報告、ニュースレターなどの情報発信を行っております。どうぞ一度ご覧になってください。

[<http://www.nagasaki-kango.org/>]



原爆復興70周年記念事業報告

昭和20年8月9日に長崎に原爆が投下され今年には70周年となります。自ら被ばくしながらも永井隆先生と救護活動を行った久松シソノ姉(養成所18期生、平成21年逝去)は私達に命の大切さ、平和への願い、そして看護を導いて下さいました。その功績により平成17年7月第40回フローレンス・ナイチンゲール記章を受賞され、また平成20年3月長崎大学名誉校友称号を授与されました。

70周年にあたり「長崎大学医学部原爆復興70周年記念事業実行委員会」が立ち上がり、記念事業を行うことになりました。長崎看護学同窓会長も発起人の一人として委員会に参加いたしました。平成26年度の同窓会総会ではこの記念事業について賛同することのご了解をいただきましたので、同窓会理事で構成する世話人会で検討し、募金をお願いすることに致しました。

その結果、383名もの多くの方から1,889,900円を寄せていただきました。亡くなられた方々への哀悼の思い、学校の歴史を支える同窓生の思いに感動し、そして誇りに思いました。心より感謝申し上げます。依頼文書の発送費用等297,720円を差し引き、150万円を実行委員会に寄付させていただきました。残りの92,180円は理事会の承認をいただき、同窓会に寄付させていただきました。



平和を語り継ぐ久松シソノ姉

主な記念事業

- 1) キャンパス内に献花台の設置
- 2) グビロが丘の手すりやロープ柵など環境整備
- 3) 劣化している原子爆弾救護報告書の修復
- 4) 原爆被災写真・資料展(7/14~7/18、8/5~8/10)
 - ・佐賀好生館所蔵の原爆診療録の展示
 - ・放射線影響研究所より長崎大学に移管された原子爆弾災害調査票の展示
 - ・これまで展示されなかった附属病院の顕微鏡の写真など
 - ・期間中の入場者は約1,200名
- 5) 「忘れな草」復刻版の作成



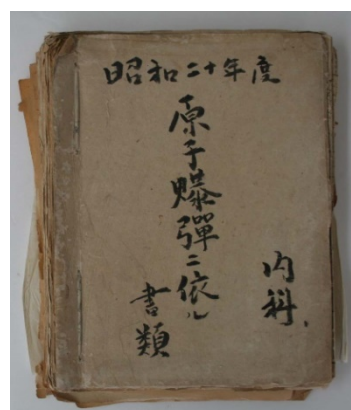
献花台



原爆被災写真・資料展



展示された調来助教授の原子爆弾調査票



佐賀県立病院(現佐賀県医療センター好生館)で発見された診療記録



原爆思いでの手記集「忘れな草」

8月9日の原爆犠牲者慰霊祭では文部科学省から高等教育局医学教育課長がご列席され、ご遺族はじめ片峰茂学長、教職員320名が出席いたしました。記念講話は朝永万左男先生が講師をつとめられ、犠牲になられた諸先輩方にこれまでどのように復興してきたか、そして現在の長崎大学医学部の現状をお伝えする内容でした。その後、献花、遺族者代表者、実行委員会代表者挨拶、さらに原子爆弾災害調査票を放射線影響研究所から理事ら3名の方にご列席いただき移管のセレモニーが執り行われました。



8月9日原爆犠牲者慰霊者



講演される朝永万左男先生

記念事業では会員の皆様のご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
(文責:浦田 秀子)

看護部長に就任して—看護部の組織運営について—

看学28回生 萩原絹子

私は平成27年4月から長崎大学病院の患者サービス担当副院長兼看護部長に就任しました看学28回生の萩原絹子と申します。

長崎大学病院は154年という日本で最も長い歴史のある病院ですが、「診療(看護実践)」「教育」「研究」「地域貢献・社会貢献」「国際化」「運営」といった国立大学病院の使命に基づき、最先端の医療を提供するとともに、患者さんやご家族の視点に立って、患者さんが少しでも早く健康を回復し、社会復帰できるように、医療チームが一丸となって取り組んでおります。

看護部では「私たちはどんなときも安心と信頼を得られる看護を提供します。」という理念を掲げ、ベッドサイドで患者さんやご家族の思いをもっとも把握している看護師がチーム医療の一員として活躍できるよう、看護専門職として自律した行動のできる看護師の育成を目指しています。いつの時代でも「看護とは何かを問いながら、患者さんに満足して頂ける看護を提供すること」は我々看護師にとっての原動力になりますし、日々の看護ケアを通して、患者さんやご家族とふれあうことで、多くの事を学び、看護師としてのやりがいや成長に繋がっていると思います。

私は看護学生時代から長い年月、長崎大学病院で研鑽できたことを誇らしく思うと共に、病院職員の約半数(平成27年4月看護師900名)を率いる看護部長としての責務に身の引き締まる思いしております。歴代の看護部長様の熱い思いを受け継ぎ、微力ではありますが、自分に出来ることを追求しながら、研鑽してまいりたいと存じます。

今後も、看護師一人ひとりが、人間性豊かな看護専門職を目指して自己研鑽しながら、優しさと思いやりをもって、温かみのある療養環境が提供できるよう努めて参りますので、同窓会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



物故者のお知らせ

お知らせいただいた方を掲載しております

養成所	14期生	一ノ瀬トシ子(旧姓 百武)	平成26年10月27日
養成所	14期生	松村 シヅノ(旧姓 原口)	平成26年 5月27日
養成所	16期生	河村 節子(旧姓 羽野)	平成27年 3月25日
養成所	19期生	竹井 トシ子	平成27年 9月20日
厚生女学部	1回生	村岡 良子	平成27年 1月 4日
厚生女学部	2回生	梶村 呼子(旧姓 江口)	平成26年 7月15日
看護学校	5回生	豊田 幸子(旧姓 野口)	平成27年 4月24日
看護学校	7回生	橋口 富貴子(旧姓 下原)	平成27年 2月14日
看護学校	13回生	岡村 悦子(旧姓 大石)	平成26年11月
看護学校	25回生	河野 智津子(旧姓 荒川)	平成27年 5月 3日
看護学校	28回生	林田 範美(旧姓 立石)	平成27年 7月27日



平成26年度看護学研究奨励賞受賞者 ならびに次年度募集について

本年度の看護学研究奨励賞授賞式は、平成17年度第1回から数えて10回目の授賞式となります。これまでに24題の研究に奨励賞が授与されてきましたが、本年度も以下の4題が受賞となりました。総会では授賞式とともに、昨年度、一昨年度に受賞された4題の研究発表を予定しています。ぜひご出席下さい。

〈本年度受賞の研究課題〉

- ①「産婦の出産自己評価に影響する助産師の関わり」
次原詩乃(長崎大学大学院医歯薬総合研究科保健学専攻修士課程2年)
- ②「胎児奇形の告知を受けた妊婦の経験と思い」
市成沙由理(長崎大学病院 6階西病棟)
- ③「介護二次予防対象者におけるマインドフルネスと主観的健康感の関連」
西田隆宏(社会福祉法人あしたば会 佐世保市吉井地域包括支援センター)
- ④「『術前ストレス対処力』と『集中治療室での術後せん妄や退院後QOL』との関連検証」
村田洋章(東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科博士課程)

〈総会で発表予定の研究課題〉

- ①「全身麻酔下腹臥位手術時を受ける患者を入室前より加温を行なう場合と加温しない場合の術中体温低下の比較」
高瀬江利子(長崎掖済会病院)
- ②「産婦に対するマニティヨガの分娩時リラックス効果の検証」
松尾佳奈(長崎大学医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座2年生)
- ③「妊娠期におけるレストレスレッグス症候群のスクリーニングと周産期アウトカムへの影響」
山口ゆかり(長崎大学病院)
- ④「ベトナム人看護師の日本の看護師国家試験対策に関する基礎的研究」
平野裕子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻)

☆次年度も以下の日程で募集しますので応募ください。

応募期限:平成28年6月20日～7月20日 詳細については下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先:勝野久美子(長崎北病院)

Tel 095-886-8700

e-mail:kita_k_katsuno@shunkaikai.jp

平成27年度看護学同窓会理事名簿

役職・氏名	卒業回	所属・連絡先
名誉会長 加藤 奈智子	看学2	
会長 浦田 秀子	看学21	医学部保健学科 819-7947
副会長 勝野 久美子 (看護学研究奨励賞担当) 萩原 絹子	看学27 看学28	社会医療法人春回会 長崎北病院 看護部・819-7523
書記 小渕 美樹子 中尾 恵理子	看学36 医短3	看護部・819-7522 医学部保健学科 ・819-7946
会計 石田 紀代美 鳥越 絹代	看学32 医短1	5階東病棟・819-7393 看護部・819-7931
監査 下田 澄江 田添 京子	看学20 看学22	
学外理事 平湯 路子 竹田 茂子 荒木 宣代 橋村 洋子 山口 則子 久松 千鶴香 松藤 由布子	看学6 看学8 看学10 看学14 看学15 看学26 保健学科6	
学内理事 高橋 眞弓 福田 昌恵 中村 千代美 片山 哲也 森藤 香奈子 (看護学研究奨励賞担当) 張川 恭子 森下 暁	看学34 看学36 医短8 医短10 医短10 保健学科2	手術部・819-7424 11階西病棟・819-7798 11階東病棟・819-7392 医学部保健学科 SCU・819-7392 緩和ケアセンター・819-8555



編集後記:今年是被爆復興70周年の年であり、その記念着事業に看護学同窓会が参加することができたこと、看護学奨励賞授賞式につきましたは10回目を迎えることができ看護学同窓会のつながりの強さを感じつつ編集をさせていただきました。これからも同窓会の動向や同窓生の活躍をご報告していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

(医短10・張川恭子)